

設備工事情報シート	衛 生	Ⅱ－P－64	制 定	2008年4月1日
			改 訂	2015年3月1日
Ⅱ．メーカー情報	雨水貯留浸透施設		ニュートレンチくん 秩父ケミカル編	

1. 目的・概要

近年、都市化の進展により、建物・道路等の不浸透域が拡大したことにより、各地で都市型水害の発生が頻発している。この対策として、各自治体より雨水貯留浸透施設の設置が指導されている。従来、碎石浸透トレンチ・浸透井戸・コンクリート製貯留槽等が設置されてきたが、ニュートレンチくんは貯留効率の良さより施設規模の縮小。軽量かつ部材の少なさより工期の短縮が可能。構造

2. 施工手順および注意ポイント



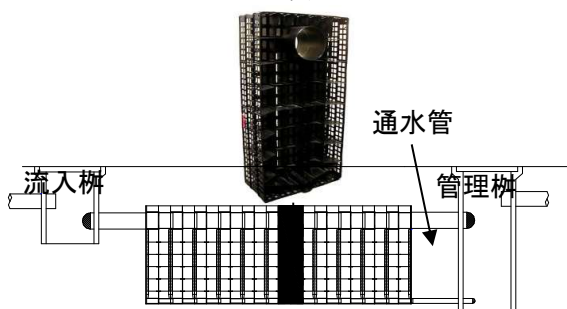
掘削・透水シート敷設



ニュートレンチくん組立



埋め戻し



完成構造図

(1) 掘削

掘削深は雨水管の管底、土被りに応じて決定する。
掘削幅は0.8m以上とする。
勾配は原則レベルとする。

(2) 透水シート敷設

設置後にユニット全体を覆えるように、専用の3.5m幅の透水シートを敷設する。

(3) ニュートレンチくん組立

内蔵管を接続し、ユニット同士を付属のジョイントにより接続する。

(4) エンドカバー取付

組立てた列の両端にエンドカバーを取付ける。

(5) 桝との接続

流入桝とニュートレンチくんをφ150mm塩ビ管で接続する。
管理桝とニュートレンチくんを、上部はφ150mm、下部はφ50mmの塩ビ管で接続する。

(6) フィルター設置

φ150mm・50mmの管口にゴミ除けフィルターをセットする。

(7) 埋め戻し

両側面に、均等に土が入るよう埋め戻しを行なう。埋め戻し終了後、転圧・締め固めをしっかりと実施する。
特に桝とニュートレンチくんの接続部分は入念に実施する。（圧密沈下が発生する可能性あり。）

(8) 敷設後の注意

工事期間中、ニュートレンチくんの上部を車輛・重機等が通行する場合、耐圧強度以上の力がかかる場合があるので、敷鉄板で保護処置を講じる。

資 料

3. ニュートレンチくんの特徴

- (1) 空隙率が95%と高く、貯留効率が良い。
- (2) 1ユニット5.6kgと軽量で、主要部材は1パーツで構成されており、人力で迅速な施工が出来る。
- (3) 狭い敷地内において、縦列、複数列、並列配置を組み合わせる自由なレイアウトが可能である。
- (4) メンテナンス機能として、必要に応じてポンプや管理柵を利用して、施設内の清掃が出来、維持管理が可能である。
- (5) ニュートレンチくん槽内が満水の状態において、通水管により通水断面が確保される。
- (6) 従来の碎石のトレンチ工法に比べ工期の短縮、トータルコストの低減が可能である。
- (7) 主としてリサイクル原料（廃プラスチック）の使用で、マテリアルリサイクルが可能であり、環境に配慮している。

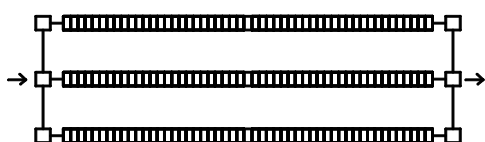
4. 配置例 流入柵 縦列 管理柵



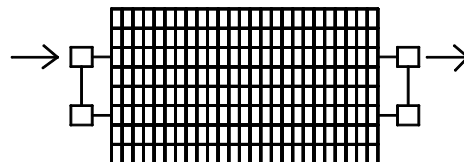
複数列

並列

流入柵 管理柵



流入柵 管理柵



5. 適用範囲

応力方向	許容圧縮応力
鉛直	89kN/m ²
水平	57kN/m ²

車両荷重の種類	土被り (m)	
	最小	最大
T-14 (14 t 車両)	0.3	2.0
T-20 (20 t 車両)	0.4	
T-25 (25 t 車両)	0.5	

6. 構成部材

部材名	本体	エンドカバー A	エンドカバー B
形状		管理柵側 	流入柵側
寸法	h 1,000mm	h 1,000mm	h 1,000mm
	w 500mm	w 500mm	w 500mm
	L 250mm	t 12mm	t 12mm

(公社)雨水貯留浸透技術協会
技術評価認定製品

国土交通省 『NETIS』登録製品
No. KT-130092-A

7. 問い合わせ先

秩父ケミカル株式会社 吉田寿人

本 社 〒101-0021 東京都千代田区外神田5-2-3 TEL 03-3832-1617 FAX 03-3832-1681

北関東営業所 〒310-0852 茨城県水戸市笠原町1469番地2 TEL 029-305-3650 FAX 029-305-3651